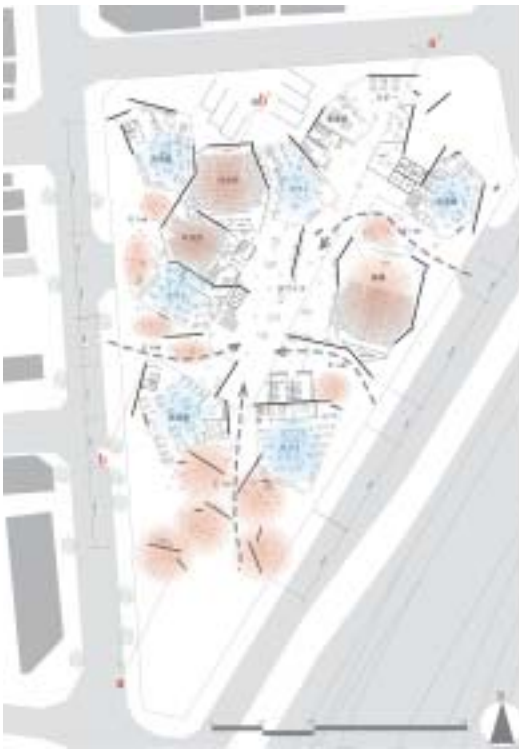
奨励賞　特別審査員奨励賞

Expression Lab.

菅原　愛（すがわら　あい）
東京電機大学　工学部　建築学科

現在の劇場や美術館はハコでつくられている。閉じられた空間によって虚構の世界がつくられ、人々に感動を与えている。では、例えばそのハコが開かれたらどうなるのだろう。きっと様々な表現が街にあふれてくる。それらのアクティビティーが、街の新しいカオをつくっていくことになるだろう。この建物は『表現』を実験的に試す場所である。不特定多数の人たちに自由に見せていける。空間を仕切る壁に注目。三角形や平行四辺形といった壁によって全体を構成していく。そうすることで、視線が抜ける部分、音だけが聞こえる場所がうまれ、曖昧な空間をつくっていく。現実空間として飲食店を配置した。現実と虚構がつながっていたり、視線がぬけたり…現実と虚構の曖昧な空間がうまれていく。



[講評]
大都会のど真ん中を
そのまま、歩き出しそうなリズミカルなフォルム
新しい時代を切り開くかのように…
8本のラインを軸にし
多用途の建築空間を
三角形、平行四辺形
といった壁でダイナミックに構成し
光が壁の角度と重なり合い
多様な光壁となって、人々を迎え入れる
虚構と現実のはざま、
多様性
切り裂かれた壁のずらし
その曖昧に構成される部分こそ、
この建築の本質がある
作者は、建築と人との関わり方を
繊細に、ひとつひとつ
そのシャープな感性で捉え
池袋の街と対話することで
新しい時代の「カオ」として作りあげた
阿留辺幾夜宇和

（審査員：信太 義晴）